

未来への架け橋 2002

—グローバル・パートナーシップ・スクール—

米日財団奨学寄附金プロジェクト

日本側代表：米川英樹（大阪教育大）

日本側コーディネータ

大阪教育大学
広島大学教育学部
鳴門教育大学

アメリカ側代表：Don Spence（ECU）

アメリカ側コーディネータ

イーストカロライナ大学
ノースカロライナ大学ウィルミントン校
ウェスタンカロライナ大学

は じ め に

1. 3年目（最終年）のGPSプロジェクト

このプロジェクトもいよいよ最終年に入った。1年目から2年目、2年目から3年目と回を重ねるほど、真の意味での交流が実現しているように思われる。最初は日米の先生方共に、恐る恐るの接近であったが、相手が自分の学校に来て、自分たちも相手の学校を訪問するという形が続くと、双方の距離が接近し、言葉の壁があったとしても仲間意識が強くなる。また、教師以上に、学校の子どもたちは目に見えてフレンドリーになっていくのが面白い。姉妹校となった学校では、教師も子どもも相手校の先生や子どもたちに対してより強い身内意識が出てくるようである。

さて、3年目のコーディネータであるが、大学によって変化が生じたところとそうでないところがある。大阪教育大学は森田英嗣先生で、1年目から変わらないのであるが、鳴門教育大学では、今年度は喜多雅一先生が中心で小野由美子先生がサポートする役割をとっていただき、広島大学教育学部では、神山貴弥先生と朝倉 淳先生が分業体制でコーディネータの仕事をしていただいた。

一方、アメリカ側にもコーディネータ役の交代があった。イーストカロライナ大学では、ヘレン・パーク (Helen Parke) 先生からキャロリン・レッドフォード (Carolyn Ledford) 先生に、ウェスタンカロライナ大学では、ケイシー・ハーリー (Casey Hurley) 先生からディクシー・マクギンティ (Dixie McGinty) 先生に替わった。ノースカロライナ大学ウィルミントン校では、ブラッド・ウォーカー (Brad Walker) 先生が3年間変わらずコーディネータ役を引き受けてくださった。

2. アメリカの教員の受け入れ

第2年目とほぼ同様のスケジュールで、私たちは第3年目もGPSのアメリカ側教員21名とコーディネータ3名、ディレクター1名の計25名を受け入れた。昨年までとは異なることは、GPSグループ以外に、州の資金で来ることになった11名の教員と1名のコーディネータ (ECUのタッカー先生) が6月22日に伊丹に到着し、それに加えて6月27日には6名の学生グループと1名のコーディネータ (元ECUのローゼンフェルト先生) が来ることになった。したがって、全員集まると44名にもものぼる。例年のほぼ倍の人数である。このうち、学生グループについてはアメリカ側で世話をしており、独自の行動をしていたのであるが、12名の教師グループはGPSグループと学校訪問などにも同行するわけであるから、スケジュール調整が大変であった。これら12名の先生方の多くは、一度GPSで日本に来た先生方が再度来られたケースが多かったので、親交を深めるにはとてもよかった。もう一度来ようとする先生方は例外なく、初めての来日の時に日本の社会と学校に魅了された方ばかりであった。ある意味では、GPSプロジェクトの成果の一つであったということもできよう。ただし、ディレクターのスペンス先生などは、最後まで、スケジュール管理や切符の手配、ホテルの予約で混乱していたように見受けられた。我々も広島の神山先生たちが精緻なスケジュール表を作ってくださいまで、混乱に混乱を重ねていたようであった。

日本でのサマリーミーティングは、鳴門教育大学の方々のおかげで、阿波踊りのプロ級の連が出たり、人形浄瑠璃の人形が登場して三番叟の出し物を見せていただいたりして、とても楽しいものであった。

鳴門の渦の見学も橋の上から行うこともでき、強い印象が残った。遅ればせながら、サマリーミーティングその他での鳴門教育大学の先生方の心づくしに対して、心からお礼申し上げたい。

肝心の学校訪問では、アメリカの先生方の3回目の訪問であるため、学校側の体制も整い、各地域で普段着の心温まる交流が行われた。生徒たちも毎年恒例の行事として受け取っているものも多く、アメリカの先生方との付き合い方も堂にいったものであった。

アメリカ教員の日本での研修の全日程

2001年

- 6月17日(日) アメリカを出発
- 6月18日(月) 成田経由で伊丹空港到着
ホテル・グリーンプラザ大阪に滞在
- 6月19日(火) 奈良観光 //
- 6月20日(水) 京都観光 広島に移動 アスタープラザに滞在
- 6月21日(木) 広島観光 鳴門グループ、大阪グループは現地に移動
- 6月22日(金) 大阪、広島、鳴門で、大学での研修あるいは小・中・高の訪問
- 6月23日(土) 1日ホームステイ
- 6月24日(日) ホストファミリー宅からホテルに戻る
- 6月25日(月)～29日(金) 学校訪問
- 6月30日(土) 鳴門教育大学にてサマリーミーティング
- 7月1日(日) 鳴門から大阪に全員移動
- 7月2日(月) 伊丹空港から成田を経て帰国

3. 日本の教員のアメリカへの派遣

3回目の教員派遣は、当初、これまでどおり3月後半に行くことを計画していたが、この年はイースターが3月の派遣時期と重なり、やむなく8月に変更することにした。8月の中旬から新学期が始まるので、はじめの1週間は受け入れ態勢が整わないと判断し、第2週目から学校に入って観察を行うこととした。3月から8月に日程が変更されたことは予算上、大きな問題が生じるようになった。すなわち、航空運賃のピーク時と重なってしまったことである。これまでもぎりぎりの切りつめた予算で研修を行っていたのであるが、大幅な運賃上昇によってこれまでどおりには行かなくなってしまった。やむなく人数を各地域から1人ずつ減らしていただき、GPS予算で行く教員の数を21名から18名とせざるを得なかった。人数をそのままにして滞在日数を減らして対応する仕方もあったのであるが、これまでと同様な質をもった研修を行うことを優先した結果、人数の減少ということになった。このことは米日財団にも報告したところ、計画の変更を快く認めていただいた。そして、これまでの交流実績のある学校、とくに姉妹校提携を行っている学校からの教員を中心に人選を行った。

日本の教員のアメリカでの研修の全日程

2002年

- 8月16日（金） 新大阪コロナホテルにて午後5時より直前研修
- 8月17日（土） 午前中は直前研修の続き。午後、関空出発
- 8月17日（土） デトロイト経由で夜、それぞれの目的地に到着
 - 第1グループ ウェスタンカロライナ大学グループの宿泊地
（空港：シャーロット、大学のバンにて移動）
 - 第2グループ ノースカロライナ大学ウィルミントン校グループの宿泊地
（空港：ローリー、大学のバンにて移動）
 - 第3グループ イーストカロライナ大学グループの宿泊地
（空港：ローリー、大学のバンにて移動）
- 8月18日（日） 市内観光
- 8月19日（月）～23日（金） 学校訪問
- 8月24日（土） 1日ホームステイ（ウェスタン地区は、8月23日から2泊）
- 8月25日（日） 午後全員ローリーに移動。Holiday Inn Brownstone Hotelにて宿泊
- 8月26日（月） 博物館Exploris内のホールでサマリーミーティング
姉妹校調印式
- 8月27日（火） イクスプローリス中学校およびイクスプローリス博物館訪問
教育委員会への訪問
- 8月28日（水） ローリーを出発
- 8月29日（木） 午後3時前に関空到着

8月19日からの学校訪問で、どのような成果が得られたのかは、それぞれの報告に詳しいが、総じて今年度も成功裏に終わった。サマリーミーティングでの発表もそれぞれ工夫を凝らしたものであり、アメリカ側のコーディネータからは年々進化しているとの言葉をいただいた。

4. 協定の締結

昨年度は交流協定締結のラッシュがあり、1 昨年の協定校と合わせて11のペアができあがっていたのであるが（『未来への架け橋2001』の「はじめに」を参照）、今年度は大阪地区とウィルミントン地区の2つの学校ペアが協定の締結を行った。それらは八尾市立東中学校とトップセイル・ミドルスクールおよび大阪府立守口北高等学校とレイニー・ハイスクールであった。結局、この3年の間に13の姉妹校ペアが日米の間に生まれたことになる。私とアメリカ側のディレクターであるスペンス先生との間では、当初、3年間でそれぞれの地区で小・中・高の1校ずつで、計9ペアが生まれれば理想なのだけにと話していたのであるが、それを大幅に上回る姉妹校が生まれたことはうれしい誤算であった。ただし、姉妹校の中には「ペーパー姉妹校」になりつつあるところも少数見受けられるので、そのような学校をより活性化することに向けて援助したいと願っている。

2002年度に交流協定を結んだ学校

- 1 八尾市立東中学校 vs Topsail Middle School
- 2 大阪府立守口北高等学校 vs Laney High School

5. これまでの歩みをふりかえって

3年間のプロジェクトの最終年が終わったのであるが、ディレクターとしては正直ほっとしたという気持ち強い。ただし、多くの学校現場は思っていた以上に熱気を帯びている。GPS参加校を訪問すると、先生方からは必ず「もっと続けて欲しい」「次はいつになりそうか」「子どもがアメリカの先生を待ち望んでいる」等々の要望が出される。また、アメリカ側の学校と共同で行う予定であるパーソナルプロジェクトを聞かされることもある。このようなことを考えると、このプロジェクトを「やってみてよかった」とつくづく思う。

日米の学校間関係ばかりでなく、日米のディレクターやコーディネータの間関係も密接になった。実際に日米のディレクターが一同に会するのは日本かアメリカでのサマリーミーティングの折りである。とくにアメリカで行われるサマリーミーティングの夜、コーディネータが集まって議論を行うのが恒例であった。1年目はそれぞれのコーディネータの紹介や表面的な話し合いであったのが、3年目になると白熱した議論も行われるようになった。私とスペンスさんがやりあうこともままあったが、真の友情は、何かを一緒につくりあげることによって強くなることをこの3年間に感じるようにいった。その意味で、GPSでいちばん学ぶ機会を与えられたのは、研修に参加された先生方ではなく、私自身だったのではないかと考えている。それもこれも日米のコーディネータの方々のお陰だと感謝している。

このプロジェクトを通じてアメリカと日本との間に小さな小さな「架け橋」を作ったということともに、以前からスペンスさんと何度も話し合っていた21世紀を生きる「グローバルシティズン」づくりに少しは役だったのではないかと考えている。これまでの私たちの歩みは、その意味で国境にかかる「架け橋」であったばかりではなく、現在と未来をつなぐ「未来への架け橋」の役割をも多少は果たすことができたのではないかと密かに思っている。

最後になるが、GPSというビッグプロジェクトは、米日財団の基金がなければ不可能であったことはいままでもない。特にプロジェクト発足の当初から、東京事務所の詫間武雄氏からは、様々なアドバイスを頂いたり、こちらの要望を誠実にニューヨーク本部に伝えて頂いたりして、プロジェクトの進行を陰で支えていただいた。私たちは、21世紀に生きるグローバル・シティズンを育てるための教師研修に取り組んできたのであるが、考えてみると、詫間さんはまさにそのグローバル・シティズンのモデルであったといえる。米日財団と米日財団東京事務所の詫間武雄氏にあらためてお礼を申し上げたい。

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト
日本側ディレクター 大阪教育大学教授 米川英樹

まことに悲しいお知らせであるが、グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクトのアメリカ側ディレクターであるDonald L. Spence博士は、2004年2月8日にお亡くなりになった。享年57歳であった。死因は心臓麻痺である。スペンス先生は亡くなる前日の土曜日に、チャペルヒルでUNCWの加納先生とセミナーを行い（美術館訪問を含めたフィールドトリップセミナー）、終了後チャーターバスで先生たちと共にグリーンビルに戻っていったことは確認されている。翌日、ベッドでお亡くなりになっているスペンス先生を友人が発見したという。前から心臓が悪いとおっしゃっていたのであるが、突然の死であった。

私はスペンス先生が広島大学の学生であった頃の1981年以来の付き合いである。いつも親切で優しい心をもった紳士であることは誰も疑いようがないであろう。以前からとても分かりやすい英語をお話になるという印象をもっていたのであるが、おそらく相手に合わせてゆっくりと話したり、相手のわかるような内容の話をするという優しさゆえであったと私は思っている。日本に来られるたびにお会いしていたのであるが、1996-97の1年間、私は彼の大学で在外研究をさせていただき、付き合いが一気に深まった。その後、いくつかのプロジェクトを共同で行ってきたが、その最大のものはこのGPSであった。

日本とアメリカを行き来しながら、日本の文化と人間のすばらしさをアメリカの方々に熱く語っていた語り口は忘れようもない。日本はアメリカの最良の友を失ったといえる。そして、私も自分の最良の友を失った悲しみはたとえようもなく深い。今でも「ヨネカワ」と電話から声が聞こえてくるような気がしてならない。早すぎる死であったが、スペンスさんがGPSを通じて行おうとしていたことは、まさに「架け橋」づくりであったし、その功績は例えようもなく大きい。

GPSの参加者、コーディネータの先生方とともに、ご冥福を祈りたい。

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト
日本側ディレクター 大阪教育大学教授 米川英樹

目 次

はじめに	大阪教育大学 教授	米 川 英 樹	
ウェスタンカロライナ大学地区			
平成14年度GPS P 鳴門地区研修報告	鳴門教育大学 助教授	喜多 雅一	1
米国ノースカロライナ州の小学校との交流について			
-GPSP (グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト) による3年間の 交流を省みてー	鳴門教育大学学校教育学部附属小学校 教諭	小川 雅功	4
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月17日-8月29日)	鳴門教育大学学校教育学部附属小学校 教諭	小川 雅功	8
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月16日-8月29日)	鳴門市立明神小学校 教諭	吉成 悦子	18
総合学習におけるメディアセンターの果たす役割			
-Dickson Schoolにおける「Foxfire」の教育実践よりー	鳴門市立明神小学校 教諭	吉成 悦子	25
グローバル・パートナーシップの展開 ーラグビーミドルスクールの4日間ー			
.....	鳴門市第二中学校 校長	阿部 要	32
グローバル・パートナーシップの展開 ー校則に見られる日本とアメリカの教育観の違いー			
.....	鳴門市第二中学校 校長	阿部 要	35
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月16日-8月29日)	鳴門県立鳴門高等学校 教諭	渡邊 敏夫	38
ノースカロライナ州の高校教育現場を見学して ー高校理科教育および教員の勤務実態を中心にー			
.....	鳴門県立鳴門高等学校 教諭	渡邊 敏夫	49

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月16日-8月29日)			
.....	鳴門市北灘中学校	教諭	小濱 直弘 54
実際に行ってわかった教科書に載っていないアメリカの社会			
- 日米中中学生意識調査を通して -			
.....	鳴門市北灘中学校	教諭	小濱 直弘 66
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月18日-8月28日)			
.....	鳴門市立鳴門工業高等学校	教諭	川村美千代 73
アメリカが育成する子ども像			
- カウンセリングルームの活用法を中心にした生徒の意識調査を通して -			
.....	鳴門市立鳴門工業高等学校	教諭	川村美千代 78
ウィルミントン地区			
Wilmington地区の研修の報告と若干の考察			
大阪地区・Wilmington地区コーディネータ			
.....	大阪教育大学教育学部	助教授	森田 英嗣 84
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
米国現地研修ジャーナル (2002年8月17日-8月29日)			
.....	大阪府立守口北高等学校	教諭	敷田富治美 89
パーソナル・プロジェクト - レイニー高校訪問を通して -			
.....	大阪府立守口北高等学校	教諭	敷田富治美 97
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクトに参加して			
.....	大阪府立花園高等学校	教諭	片岡 雅子 110
グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト			
ノースカロライナ研修報告 (2002年8月17日-8月29日)			
.....	大阪府立池田高等学校	教諭	吉岡 宏 116

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト

米国現地研修ジャーナル (2002年8月17日-8月29日)

..... 八尾市立東中学校 教諭 小林 孝泰 128

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクトの展開

トップセイル・ミドルスクールを訪問して考察したこと

..... 八尾市立東中学校 教諭 小林 孝泰 133

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト

米国現地研修ジャーナル (2002年8月17日-8月29日)

..... 高槻市立榎田小学校 教頭 藤本 政信 137

グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト

研修概要 (2002年8月16日-8月28日)

..... 東大阪市立荒川小学校 教諭 高井 延子 148

国際理解のとらえ方 -バージニア・ウィリアムソン小学校での事例から-

..... 東大阪市立荒川小学校 教諭 高井 延子 156

国際理解教育の指導について

-ヴァージニア・ウィリアムソン小学校の訪問を通して-

..... 東広島市立御園宇小学校 教諭 森重 章子 161

自己表現力及び心の育成における指導法の比較

..... 東広島市立御園宇小学校 教諭 森重 章子 163

イーストカロライナ大学地区

学校間のグローバル・パートナーシップ樹立に関する考察

-広島大学地区および米国ノースカロライナ州イーストカロライナ大学地区における
パートナーシップづくりを中心に-

..... 広島大学大学院教育学研究科 小篠 敏明・深澤 清治 169
朝倉 淳・神山 貴弥

グローバル・パートナーシップの展開 -Martin Middle Schoolの訪問を通して-

..... 広島大学附属三原中学校 教諭 松尾 砂織 178

異文化理解に必要な学習指導のあり方の研究

－広島大学附属三原中学校とMartin Middle Schoolの比較を通して－

..... 広島大学附属三原中学校 教諭 松尾 砂織 182

グローバル・パートナーシップの展開

－Elmuhurst Elementary Schoolの訪問を通して－

..... 広島大学附属東雲小学校 教諭 上之園 強 189

学校と地域社会とのかかわり

－Elmuhurst Elementary Schoolを事例として－

..... 広島大学附属東雲小学校 教諭 上之園 強 192

学校訪問を通しての交流 －Wahl-Coates Elementary Schoolの訪問を通して－

..... 広島大学附属三原小学校 教諭 石井 信孝 198

幼稚園教育と小学校低学年教育の連携に関する考察

－Wahl-Coates Elementary SchoolにおけるGrade K及びGrade 1の教育活動の観察を通して－

..... 広島大学附属三原小学校 教諭 石井 信孝 201

グローバル・パートナーシップの展開 －Exploris Middle Schoolの訪問を通して－

..... 広島大学附属東雲中学校 教諭 柳原 弘典 209

日本とアメリカの学校における情報教育の比較研究

－広島大学附属東雲中学校とExploris Middle Schoolの比較を通して－

..... 広島大学附属東雲中学校 教諭 柳原 弘典 213

グローバル・パートナーシップの展開

－エルムハースト小学校とノースウエスト小学校の訪問を通して－

..... 東広島市立平岩小学校 教諭 田中 宏憲 218

基礎学力を定着させる教育環境および学習指導のあり方

－アメリカ（ノースカロライナ州）の小学校の場合－

..... 東広島市立平岩小学校 教諭 田中 宏憲 220

信貴山の虎 アメリカへ行く －47歳の旅立ち・私自身の総合学習として－

..... 三郷町立三郷北小学校 教諭 太田 啓子 224

平成14年度GPSP鳴門地区研修報告

鳴門教育大学 助教授 喜多雅一

鳴門グループは、第1回事前学習会を6月13日に自己紹介とノースカロライナでの研修への期待を述べた。第2回事前学習会(7月15日)は個人研修の具体的なテーマと実施方法並びにノースカロライナ側の受け入れ校との連絡状況を報告、並びに学内委員の大学教官による研修計画への助言を行った。第3回は8月6日に最終の個人研修計画の報告と保険などの事務的な手続きを行った。

渡米前日の8月16日のコロナホテルでの全体の事前研修で他のグループの個人研修テーマを聴き、自分たちの研修への期待がさらに高まったと感じられた。鳴門グループのみローリーではなくシャーロットへ移動し、出迎えてくれたウェスタンカロライナ大学(WCU)のデキシー並びにマイルズ・マクギンティ夫妻と車でカロウエーのWCUのゲストハウスへ連れていってもらった。夜中の12時を回っていたが、ゲストハウスにはWCUのロイス・ペトロビッチー・ムワニキ氏と圭一郎氏が出迎えてくれ、部屋の鍵の受け渡しと部屋には一人一人かごいっぱい果物などの暖かい歓迎を受けた。

8月18日は大学のブラウンカフェテリアで朝食を食べ、新学期のため入学してくる大学生でにぎやかなWCUを散策した。また10時過ぎからマクギンティ夫妻にグレイブヤードの滝へ連れていってもらい、全員ゆっくりとくつろいだ。夜は教育学部部長をされていたベニー・スミス先生の自宅でのポトラックパーティをしていただき、9時頃まで歓談した。

8月19日はまずカロウエーバレイ小学校で全校生徒と父兄により熱烈な歓迎を受けた。まず図書室で郡の教育長とともに父兄の準備した朝食をいただき、その後、体育館で新学期が始まって1週間にもかかわらず児童が次々に多くのダンスや歌、阿波踊りも含めて披露し、歓迎してくれた。その後、学校内を生徒に案内してもらい、学校の様子を見学した。その後、小学校の食堂で、昼食をいただいた。この小学校は鳴門第一小学校の協定校であるが、第一小学校側が今回来ていないことまた、交流に熱心でないことを大変残念がっ

ていた。

次にスモーキーマウンテン高校へ移動し高校の施設見学と校長先生に様々な質問をし、情報を収集した。この高校のガイダンスルームの役割や、単位制であるが新しい試みとして複数の教科を組み合わせるクラス単位の履修を始めていることについてそのねらいや利点について説明を受けた。

この後NCCAT(North Carolina Center for the Advancement of Teaching)の施設見学とピクニック様式の夕食をいただき、この後、このホールでウェスタン地区のGPSP関係者による歓迎レセプションをしていただいた。暖かいスピーチの歓迎の後、第二中学校の校長阿部先生により羽織袴の正装で尺八の演奏、その後付属小学校の小川先生のトロンボーン演奏をバックに鳴門地区の全員により前日振り付けを考えた「いい湯だな」の歌と踊りを披露した。終了後、鳴門グループの半数はヘンダーソン地区へ移動した。

8月20日から8月23日まで鳴門グループは、吉成(アイザック・デクスン小学校)、小濱(フラットロック中学校)、阿部(ラグビー中学校)、小川(フェアビュー小学校)、川村(タスコラ高校)、渡邊(スモーキーマウンテン高校)に終日、滞在し、個人研修テーマに沿った授業見学、実際に授業実践、校長・副校長・ガイダンス室などにインタビューやアンケート調査などを実施した。私はカロウエー地区に残り、20日タスコラ高校、21日フェアビュー小学校、22日スモーキーマウンテン高校、23日タスコラ高校をそれぞれ訪問し、各先生の活動状況の見学や校長などへのインタビューを行った。

8月20日タスコラ高校へ川村先生とインターンをしているウェスタンカロライナ大学の学生とともに早朝6時30分にマジソンホールを出た。高校に着くとまず校長に挨拶し、学校の案内をしてもらった。1,200名の生徒がいて、副校長が3名で(男子生徒担当1名、女子生徒担当が1名(服装から生徒指導まで)、スクールバスの運行管理が1名)である。

8時から授業が始まったが、新学期のため短縮で30

分授業だった。タミー先生の英語の特進クラス28名に川村先生が「鳴門市立工業高校の剣道部の女子生徒の一日」をビデオを使って紹介した。ビデオは英語のテロップ付きで川村先生が日本語で、通訳の美枝子さんが英語で日本の高校生の日を説明した。生徒はかなり興味を示していた。詳しくは川村先生のレポートを参照してください。

高校の食堂はとても広く、知的障害を持った学生を優秀クラスの生徒が面倒を見たりしていて、平等な扱いを高校の中で受けている様子がよくわかった。食事は校長のおごりだった。化学の教師と地学の教師に話を聞くことができた。化学では、1年間に10クラスに対して3,000ドルの教材費があるということだった。教科書は大変進んだもので、日本では大学で扱うものがかかなり高校で扱われている。また高校で、大学の単位を修得できるAPクラス用の内容を含んでいる。地学の内容もシラバスをもらったところでは、かなり先進的であると感じられた。

この後、美枝子さんにウェインビルの町を案内してもらった。町の芸術家の店が多くあり、大変きれいな町だった。このあたりは白人が主で、黒人はほとんどいない。これは産業が、木工家具などの製作しかないのでと考えられる。

夜7時30分よりロイス・ムワニキ先生も交えてその日のリフレクションをした。

小川先生：フェアビュー小学校はOPEN SPACE

研究校で丸い図書室の周りに教室があった。

川村先生：ガイダンス室を生徒がどのように利用しているかをインタビューをしながら調べたい。

渡邊先生：理科の教室はすべて、講義と実験観察がすぐできるようになっていて印象深い。

21日小川先生とフェアビュー小学校へ、スー校長に学校を案内してもらった。8時から10時30分まで2年生の音楽の授業を見た。まず、音楽をCDで聴かせ、歌ったり、踊ったりし、次に歌詞が書かれた白い紙(冊子としたもの)を渡し、一人一人がそれにイメージを絵にして描かせていた。また、毎日の活動として、絵本を親に読む活動とそれについて親が感想を書くものと、先生がその日の話題を書きそれについて児童が感想を書くという宿題のファイルがあった。

10時30分から11時20分まで算数の不等号についてのTrue or Falseを見学した。その後学校内にある自然

観察用の池や林をスー校長が案内してくれた。

この日の夕方はロイスがシルバの町へ連れていってくれ、本屋とレストランに入った。デキシーがリフレクションに来てくれることになっていたが、食事が遅くなり、できなくなった。

22日は小川先生の阿波踊りの授業を見るため午前中再びフェアビュー小学校へ行った。地区の教育長・ロイス、遅れて小野先生もここへ来た。阿波踊りの音楽演奏と踊りの指導を小川先生と音楽の教師と一緒に8時15分より10時まで5年生全員120名に行った。幼稚園のクラスも踊りに参加した。小学校の入り口のホールの周りに幼稚園のクラスが3つある。

その後、スモーキーマウンテン高校へ移動し、渡邊先生の化学の実験を見た。

23日は再び、タスコラ高校へ行き、校長への学校経営についてのインタビューと化学の授業を見学した。化学の授業は化学変化と物理変化の違いがテーマで、鉄粉と硫黄粉を混ぜて反応、マグネシウムリボンの燃焼、ショ糖の蒸し焼き、炭酸水素ナトリウムと塩酸の反応、食塩水の乾固などの実験だった。2人一組で実験をしていた。実験エプロンと保護眼鏡を全員着用していた。実験指導はよくされているようだ。

この日並びに翌日は全員ホームステイをし、各人、ノースキャロライナのもてなしと生活を楽しんだ。ちなみに、私は、トレイルハイキングに連れていってもらった。

25日は朝からラーレーに一日かけて移動である。その夜は朝5時30分まで、翌日のサマリーミーティングのための準備を行った。

サマリーミーティングの骨子

小川先生：阿波踊り授業実践(音楽とダンス)

学校間交流3年目の確かな手応え

小濱先生：日米中学生の意識調査(学校への気持ちや悩みの違い)、日本の漁業についての授業実践

川村先生：教科間の連携(美術と国語)：書道と団扇

ガイダンスルーム利用生徒へのインタビュー

阿部先生：クロスする教育改革

吉成先生：総合学習Firefox方式から学ぶもの
メディアセンターの果たす役割

渡邊先生：授業への満足度の高さの原因

化学で実験を伴う授業のあり方

以上をパワーポイントにまとめた。

26日はラーリーの博物館エクスプロリスでサマリーミーティングが行われた。GPSPも3年目であることをふまえて、鳴門地区は全体的な話をあえて取り上げず、個人研修の成果を中心に発表した。その後、お世話いただいた先生方と名残を惜しんだ。鳴門教育大学から私費で参加している中水流さんもここで一人デクソン小学校へ戻った。

27日はチャータースクールとして成功しているエクスプロリス附属の中学校を見学した。

6年生56人、7年生56人、8年生56人（14人の4グループ）で午前中基礎学習を行い、午後は学年を越えたプロジェクト学習をしている。学年のはじめであったため、教室にはそれぞれの基礎学習で各人が目標（明らかにしようとすることや達成しようとする）を教室に張り出してあり、目的意識を持った学習計画がうかがわれた。授業形態もチョークアンドトークではなく子どもの学習意欲の重視や参画型の形態であり、大変進んだ学校であった。さらに、プロジェクト学習の成果は廊下に張り出されていてプロジェクトの達成

成果のモデルとなっている。プロジェクトテーマは毎年変わるので、教員の工夫や能力が大きく要求される。なお、体育は教室で行うため、若干不便かなと感じた。この学校の入学の選考基準はと聞いたところ生徒並びに親がプライドを持ってこの学校に通わせることという答えが返ってきた。保護者・学校運営・授業方法など色々な意味で、いいモデル校と考えられる。

あと教育委員会（DPI）の施設見学（教育委員会との意見交換を想定して質問をたくさん考えていたがそれはなかった）をした。

28日宿を引き払う際、鳴門からの参加者で、電話料金に関するトラブルがあり、電話はプリペイドカードが安全であることを再確認した。

29日日本へ無事帰国。関西国際空港で3地区合同で解散式をし解散した。鳴門地区全員の感想としては密度の濃い、有意義で得ることの多い2週間であった。

個人的な成果としては、スクールポートフォリオの実際を見ることができたことで、スクールポートフォリオは毎年の学校改善プラン（スクールインブループメントプラン）に直につながっている。スクールポートフォリオの定型化と定着が学校運営と予算獲得の柱になっていることは新鮮な驚きだった。

米国ノースカロライナ州の小学校との交流について

—GPSP (グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト) による3年間の交流を省みて—

鳴門教育大学学校教育学部附属小学校 教諭 小川 雅 功

2000年3月に、本校の松永教官がノースカロライナ州シルバ市にあるフェアビュー校を訪問した。鳴門教育大・大阪教育大・広島大の3大学が連合し米日財団の支援を受けて、現職教員を米国の現地校に派遣をする制度(グローバル・パートナーシップ・スクール・プロジェクト)に参加してのことである。

現地のフェアビュー校と交流を進めようと、帰国してから、子どもたちと共に、エアメールや電子メール、ビデオレターを作成し送ったところ、先方からも返事が届いた。

選挙の勉強をした風景が送られてきた。右は、返事をもって喜ぶ子どもたちの姿である。

次の段階として、これらの交流をさらに強い物にしていこうという声が高まり、翌年3月に本校の前校長の世羅先生が団長としてフェアビュー校を再び訪問することになった。ここで、協定を結び仲良くしていこうとの話が進んだ。そして、2001年6月に、同校のスー・ネイション校長先生が本校を訪問し、村田校長先生と共に協定書に調印をする運びとなった。

調印式では、ネイション校長先生からのすばらしいメッセージと、フェアビュー小学校の子どもたちから私たちへの友好の印タペストリーをいただいた。式の様子をビデオに収め、フェアビュー小学校の友だちに見てもらえるようにと持ち帰っていただくなど、交流のパイプがさらに太くなってきた。

昨年9月の米国における事件を悼み千羽鶴を折って



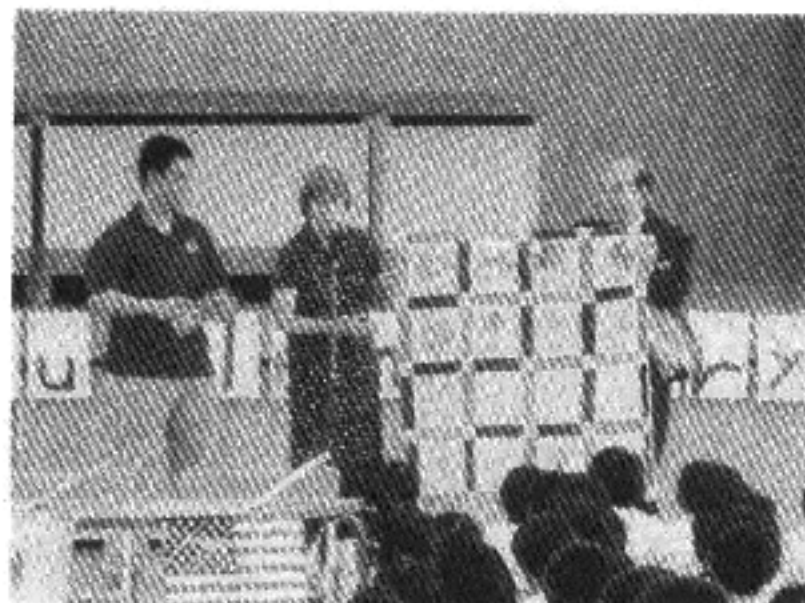
Casting ballots on Election Day

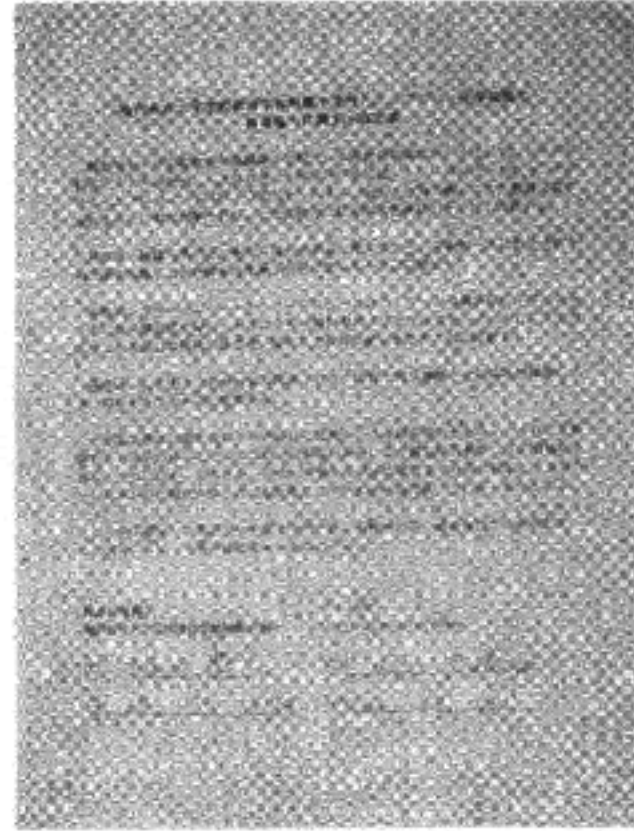
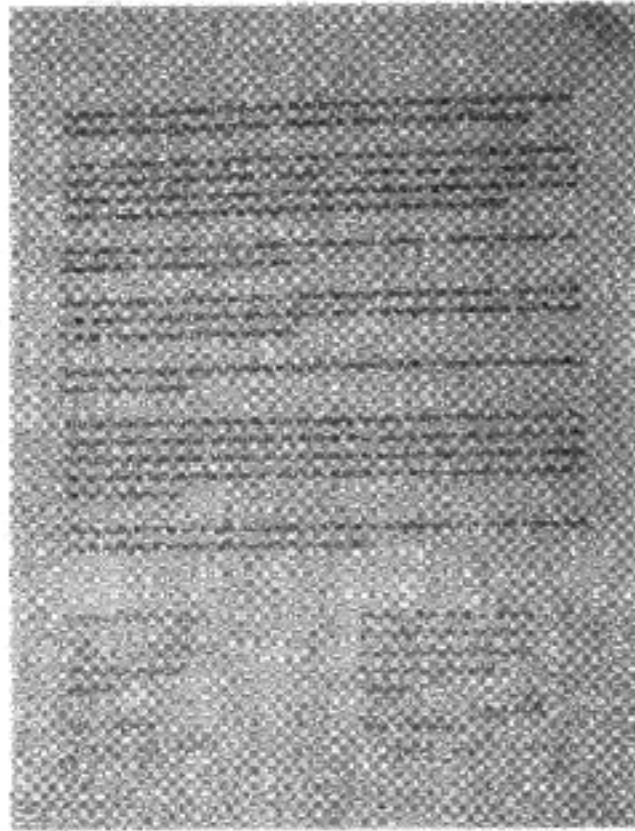


Small text caption below the election day photo, mostly illegible due to small size.



送ったりするなど、子どもたちの作品のやりとりも進んでいる。交流が始まり、そして続いてきている大きな理由に、子どもたちの交流に対する興味・関心は欠かせないが、それと共に、鳴門教育大学の先生方の支援があることも忘れてはならない。多くの方々に支え





協定書 英語と日本語の2通を作成

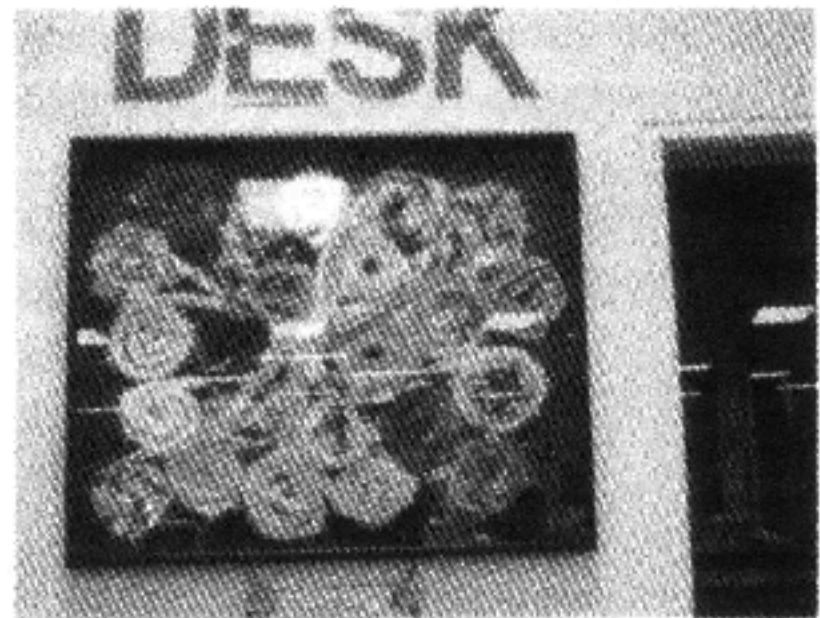
られて交流は進んでいる。

2002年8月GPSにより私が、再びフェアビュー小学校を訪問する機会をいただいた。右の写真はフェアビュー小学校のメディアセンターに飾られている千羽鶴である。昨年本校より送った千羽鶴がこのような美しい形でディスプレイされている姿に感動した。交流が3年目を迎え様々な形で広がっていく予感を感じた。

前回松永が訪米した際には具体的に交流する学校は決まっていなかったが、今年度は姉妹校提携も結んでいることもあり、訪米前からフェアビュー小学校と電子メールのやりとりを通して連絡をとることができた。フェアビュー小学校訪問にあたって次のような希望をフェアビュー小学校へ送った。

- これまでの交流をより深めるための具体的な方法を探りたい。
- 交流学习を一步進めて、教科の授業実践を行いたい。(音楽科を希望)
- 日本では課外活動として行っているバンドの指導をフェアビュー小学校ではどのように行っているのか知りたい。

そして、フェアビュー小学校よりいただいたのが次のスケジュールである。



Mr. Masanori Ogawa Visitation Schedule at Fairview School

Tuesday, August 20

8:15-9 a.m. Welcome Assenbly

9-11:15 a.m. 3rd grade

11:15 a.m.-2:45 p.m. Kristin Savery's 6th grade

Wednesday, August 21

8-10:30 a.m. Joyce Dyer, 2nd grade

10:30-11:20 a.m. Glenda Dills, 8th grade

11:20-11:50 a.m. PE with 8th grade

11:50 a.m.-12:30 p.m. Marianna Kesgen, 8th grade GLOBE

12:30 p.m.-1 p.m. Lunch with 8th grade

1-1:30 pm. Marianna Kesgen, 8th grade GLOBE

1:30.-2:45 p.m. Angie Dills, 8th grade key boading

Thursday, August 22

8-9 a.m. Practise drums with 7th grade

9-10 a.m. Mr. Ogawa will give Awa Odori dance demonstration for entire 7th grade

10-10:55 a.m. Jill Keller 5th grade music

11 a.m.-12:45 p.m. Kathy Wooten, kindergarten

12:45-2:45 p.m. Jodi Bruegger, 5th grade

Friday, August 23

8-10 a.m. Band

10 a.m.-1 p.m. 1st grade

1 p.m.-1:20 p.m. Coke Party, 6th grade

1:45-2:25 p.m. Fitz Eldrige, 4th grade art

現地についてすぐに、ネイション校長先生よりこのスケジュールをいただいた。こちらの希望により変更可能ということで、授業やバンド見学に合わせてスケジュールを変えていただいている。

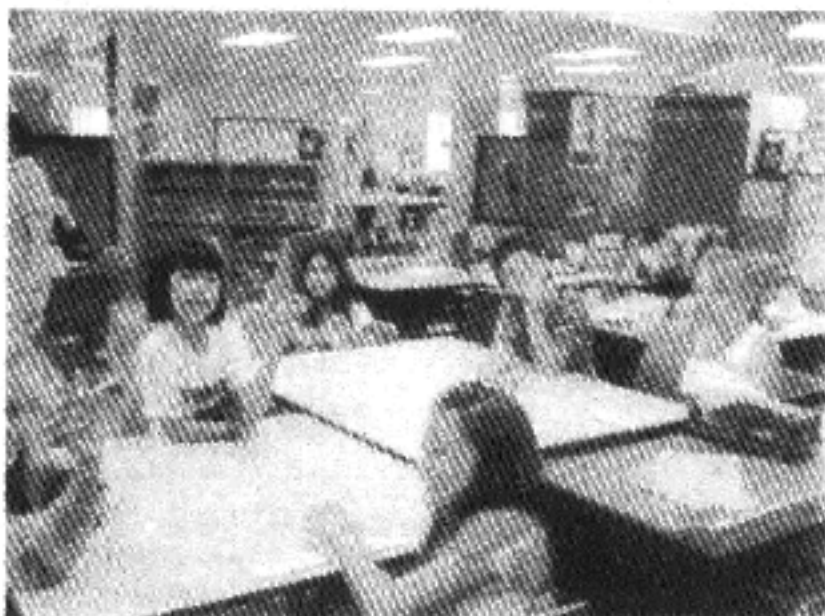
○これまでの交流をより深めるための具体的な方法を探る。

4日間という短い期間であったが、様々な学年の子どもたちと行動をともにするよう計画を立てていただいた。

3年生では、千羽鶴にちなんで、折り鶴をいっしょに折り、そこに込められている思いについて話し合った。

昼食、休憩の時間も子どもたちとともに過ごさせていただき、好きな音楽、家族のことなど学校のこと以外のことも気さくに話してくれる子どもたちに好印象を持った。

もちろん、交流をより深めるためにと、日本から、絵画、手紙を持っていき、直接交流を希望するクラスで説明を行った。



1年生のクラスでは本校1年生が作成した「がっこうたんけんかるた」を持参し、学校について紹介するとともに、いっしょに遊ぶことで、より親近感を増すよう試みた。もちろん、日本語はまったく理解できないが、日本語の形には興味を示し、ひらがなの形でゲームを進めている様子を見て、日本の1年生とまったく変わらないと感じた。

これらの試みにより、具体的に交流相手のクラスを特定し、学校を去るときにはいくつかのクラスから本校児童宛に絵画や手紙をいただき帰国後紹介した。

○交流学习を一步進めて、教科の授業実践を行いたい。
(音楽科を希望)

今回の訪問にあたっては、単に学校紹介に終わるだけでなく、授業実践を通して分かり合えたらと考えた。研究教科である音楽科による実践を日本の子どもたちに行った時とほぼ同じように行おうと考え、計画を立てた。昨年度6年生に対して行った「阿波踊り」の音楽を創作する実践の中から、導入部分である「阿波踊り」のお囃子を演奏するという実践をフェアビュー小学校の7年生に対して行うことができた。

当初は、音楽科の部分であるお囃子を演奏すること

指導案 音楽チーム

1. 阿波踊りについて知る。
・カセットテープを聴く。
2. 自分のやってみたい楽器を選ぶ。
・楽器群を紹介する。
3. パートごとに練習する。
4. 阿波踊りの音楽を体験する。
・合奏の工夫をする。

指導案 踊りチーム

1. 阿波踊りについて知る。
・音楽チームの演奏を聴く。
2. 阿波踊りの基本的な動きを知る。
・男踊りを紹介する。
3. 演奏に合わせて踊る。
4. 阿波踊りを楽しむ。
・踊りの工夫をする。



だけを考えていたが、フェアビュー小学校からの要望もあり、お囃子を演奏後、7年生全員で踊ろうという計画に変更した簡単ではあるが右の指導案のように行うこととした。

まず、7年生の1クラスに対してお囃子の演奏を練習した。それぞれのパートの楽譜を準備はしていたが、現地で調達できる楽器の数に限りがあり、多少イメージとは違う楽器も使用したが、なんとかお囃子を演奏できるようになった。

後はそのお囃子をたのみとして7年生全員での「阿波踊り」となった。本来阿波踊りは自由な演奏で自由に踊るということから考えれば、みんなで楽しむことのできたこの時間は日本の音楽をもとにした音楽の授業であったと考えている。



○日本では課外活動として行っているバンドの指導をフェアビュー小学校ではどのように行っているのか。選択教科として、毎朝行っていること、隣接する高校との連携を図っていること、等参考になることがたくさんあった。特に、演奏を楽しもうとする姿勢、無理なく進められる指導教材は帰国後、指導に取り入れている。

今後の交流のありかた

帰国後、さっそくいただいた手紙や絵に対して返事を書こうと、ビデオレターを含めて絵画、手紙など様々な交流を求めて行動を起こしている。これらの贈り物を送付後、フェアビュー小学校から送ってきたメールに子どもたちの写真と、それに照応した名表が送られてきた。今後はクラス単位での交流からより焦点を絞って子ども同士の交流に進めていきたいと考えている。また、GPSが今後も継続されるのであれば、フェアビュー小学校からの教師を受け入れ、また、こちらからも教師を送ることにより、より進んだ交流を進めていけるものと確信している。

